

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日(土)～12日(日)

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

プレコングレスワークショップ 2	
企画名	失敗症例から学ぶ「ヒヤリハット・カンファレンス」 ～上手な教育カンファレンスの作り方～
日時	2016年6月10日(金) 13:30～15:00
会場	第9会場 (台東区民会館 8階 第5会議室)
企画責任者	松浦武志 (北海道勤医協中央病院 総合診療 家庭医療 医学教育センター (GPMEC))
定員	48名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>初期・後期研修医を対象としたいわゆる「教育カンファレンス」を、どのように運営・開催していったらよいか? その一例として、北海道勤医協中央病院で行われている「ヒヤリ・ハットカンファレンス」を実演するとともに、その準備やカンファレンスの司会のコツなどを紹介する。</p>	
<p>【概要】</p> <p>医師であれば誰もヒヤリとした経験やハットとした経験はあるだろう。こうしたいわゆるヒヤリ・ハット症例から学ぶべきことは多い。本来こうしたヒヤリ・ハット症例は、その経過が重大であればあるほど、多くの病院関係者の間でその教訓を共有して次に活かすことが大切であるが、逆説的に、その経過が重大であればあるほど経験者の胸の内にしまわれてしまうことが多い。</p> <p>それは、こうした事例の振り返りでは、引き金となった最後の出来事に注目が行きがちで「どうして〇〇をしなかったんだ?」という「ミスの糾弾」や「誰が見逃したのか?」といった「犯人探し」に終始することが多く、カンファレンスで発表者は委縮してしまい、教訓を皆で共有することに及び腰となってしまうからである。</p> <p>今回のセッションでは、失敗して落ち込んでいる研修医の指導のコツや、ヒヤリ・ハット症例の振り返り方法のコツ・多くの指導医からの「吊るし上げ」にならないカンファレンスの司会のコツなどを、実際のカンファレンスの実演を通してその理論と実際を紹介する。</p> <p>参加する初期研修医は教育カンファレンスの醍醐味を堪能し、後期研修医はこのカンファレンスの発表者と同じく失敗症例からの振り返り方法を学習し、指導医は研修医指導技術のさらなる向上の一助にしていればこの上ない幸せである。</p>	